



土に学ぶ

あるとき、いくら野菜を作っても、
全く良いものができないときに訪れました。
一生懸命やっているのに、なぜか。
その人は立ち止まって栽培を見直します。
埼玉県川越市で農業を営む
吉澤重造さん、御年81歳の土作り。

出荷のある日は毎日、陽が昇る前の早朝から、里芋の調製を行う吉澤重造さん。「人間はね、目の前にあることを一生懸命やれよ。そうすりゃ悩みはないの。できるから、やれてんだから」と感謝して手を動かします。

採れどくまで 気が付いた

青く豊かに茂った大根の葉に朝露のしずくが光り、その上をたくさん
のモンシロチョウが飛び交っています。
9月初めに種を播いて、収穫を
控えた10月終わりの畑です。

今回私たちが訪ねたのは、埼玉県
川越市で代々続く農家の10代目、吉
澤重造さん。妻のとみ子さん、長男
の重幸さんとともに、農業・化学肥
料に頼らず野菜を育てています。

大地を守る会に農産物を初めて出
荷したのが1981年というベテラ
ン生産者ですが、遡ると一般的な慣
行栽培を行っていた時期があるとい
います。当時はまだ、「量が採られ
ばいい」という時代でした。

「昔は農業も化学肥料も使ってた。
そしたらあるとき、ぱたっというの
が採れなくなったんだよ。大根採っ
て市場に持っていくでしょ。極端な話
だけど翌朝には傷んでる。そしたら
ある人に、あなたの作り方は間違っ
てるっていわれてね」と重造さん。

「間違ってる」と説いたのは当時知
り合った果物商でした。その人がい
うことには、「大根は曲がりたい、
腐りたいなんて思っていない。肥料を
たくさん入れて弱らせてるのは農家
の人たち」。人間の体でいえば食べ
させすぎということ。健康な野菜を
作りなさいと諭されたそうです。

事実、生気がない大根の姿を目の
当たりにしていた重造さんは、その
声を無視することができません。恐
る恐る化学肥料を使わず育ててみま
す。するとどうでしょう。立派な大
根ができました。「量をたくさん」
「形を太く」と疑いなく使ってきた
化学肥料がなくても、見た目が良く、
中身も元気な大根ができたのです。

ここから重造さんは野菜の作り方
を根本から見直します。農業・化学
肥料に頼らない栽培の始まりでした。
「さらさらでおいしいも何もしないで
しょ。ほら」。この日、重造さんは
畑に使っている自家製たい肥を見せ
てくれました。5年が経過したたい
肥は乾いた感触で色は深い黒。確か
ににおいはありません。材料は山林
を伐採した際に出る枝や根を造園関
係業者が砕いてくれた鶏糞です。

「1年もたたないうちに畑に入れた
らまだ生の状態。においがするのは
未熟だからだよ。微生物がたい肥を
分解して、これならいいと仕上がっ
たのを入れなきゃ畑はだめだ」。

未熟な状態で畑に入れると生育障
害など、かえって良くない作用を及
ぼします。一方、重造さんが作るた
い肥は、完成まで最低でも2年。切
り返しと呼ばれる、混ぜる作業の過
程で酸素に触れさせ分解を促します。

小さな存在に 生かされている

でき上がったたい肥は、畑の貴重
な栄養分。畑に撒いて、耕しながら
鋤き込んでいきます。たとえば大根
の場合、「大根十耕」といわれ、先
端が当たらない深さまでよく耕すこ
とが大切。土の中でまっすぐ下に伸
びて生長できるよう、70cmの深さに
届く耕運機でやわらかく耕し、たい
肥を入れるのです。

私たちの目には見えませんが、土
の中には、たくさん小さな命、微
生物が存在しています。たい肥に含
まれる有機物は、畑の微生物の餌と
なるとともに、たい肥自体に含まれ
る微生物によって多様な命が共存す
るバランスが取れた土壌を作ります。
重造さんは人間の体にとえます。



1 収穫後の人参。猛暑の中、畝の作り方と水やりを工夫して無事生長しました。
2 5年経過したたい肥。ここまで分解すると作物に負担なく栄養になります。



畑に 命がめぐる



3 掘り起こした里芋は、こんな大きな塊でした。一つの親芋から採れるのは15〜30コ。
4 モンシロチョウが集まる大根の畑。新芽のときに幼虫に食べられると大根は育ちません。今年は虫が多く3割の大根が被害を受けました。
5 畑で芋をばらしてこの姿に。品種は「土垂（とだれ）。長く格好良く育ち、たくさん採れます。
6 作物を覆う防虫ネットもなく「自然に採れるやり方でやってる」という重造さん。「まだ生育途中」の人参はこの後もっと大きく。
7 根に付く菌が土壌病害菌を抑えるわけぎ。わけぎの後に植えると良いものが育ちます。
8 里芋を掘り返したら畑で芋をばらします。「働き手がいてくれるから成り立つ」重労働。



里芋は茎が倒れて枯れると収穫の合図。まるで意志があるかのように、しなやかに横たわります。茎が肥大化したものを食べる里芋は、この太い茎の下に芋の塊が隠れています。



葉が枯れて 収穫を告げる

「土の状態は人間の腸の状態と同じなんだよ。土の中の微生物のバランスが整うのと、人間の腸の中の菌のバランスが整うのは一緒。整えばどちらも健康、良い状態になる」。

農業や化学肥料に頼らない栽培の場合、こうした微生物の力を借りて、土の力を高めることが基盤となります。健康な土は病気を寄せ付けず、元気に育った野菜は虫を遠ざけ、農薬に頼ることなく生長できるのです。

重造さんの里芋畑では、直立すると2mにもなる背の高い葉が、くたっと地面に横たわっていました。

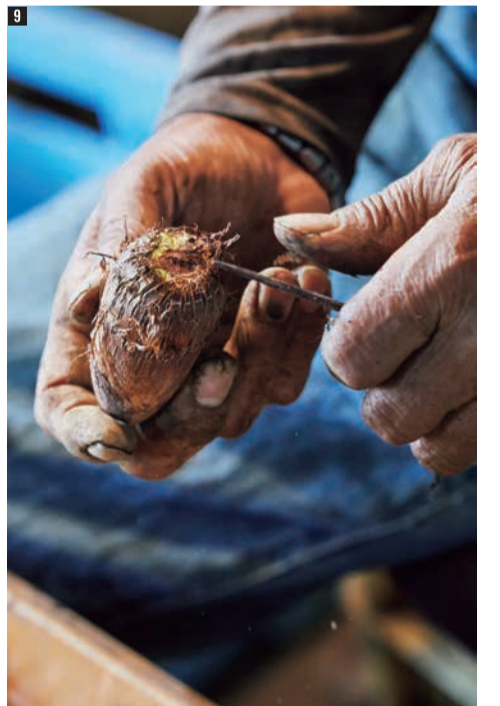
「お盆過ぎたらもう葉っぱの生長は止まらないの。葉っぱを作ること考えたら、芋を太らすこと考えられないでしょ。芋が太って、私の役目はおしまいよって、こうなつたらいい」。

芋が十分生長すると、葉が枯れて収穫を知らせてくれるといいます。

里芋は、畑に植えた種芋が親芋として生長し、その周りを囲むように子芋ができます。同じように子芋の周りに孫芋ができ、孫芋の周りにひ孫芋ができることもあります。

里芋の株を掘り起こす収穫作業を見ていると、ごろんごろんと巨大な塊が土の中から出てきました。30cmほどの親芋に子・孫芋が付いて、根がひげのようにぶら下がっています。泥を纏って10kgはあろうかという迫力。この塊を地面にドーンと落とせば、外から、子と孫を手でぽきぽき外していきます。ここでようやく、よく見る里芋に近づきました。

通常出荷されるのは、孫芋。1つの子芋から、大きい孫芋が3つ4つ採れるのが理想ですが、当然思うように形はそろいません。けれども、



「これが自然なんだからいいんだよ」と重造さん。「工業製品は1mmの狂いもなく仕上がるけど、生き物はそうはいかない。いろいろな形でも面白いと理解してもらえればいいね」。

里芋の出荷仕事は人の手による作業の連続です。ごつごつした里芋を洗ってむくのが面倒だと思いがちですが、産地ではそれ以上に手間がかかります。知りました。



9 里芋の断面を整え、毛羽やひげ根を外す出荷前の調整は手作業。朝4時に起きて一人黙々と行います。10箱分で3時間の仕事。
10 太い茎の下の方を鎌で切り落とした後、畑に機械を走らせて里芋の株を掘り起こします。
11 里芋を収穫する吉澤さん一家。右から重造さん(81歳)、妻・とみ子さん(75歳)、長男・重幸さん(51歳)。春のお彼岸から植え始めて、収穫は11月ごろまで続きます。

土の健康を土台にした重造さんの野菜作り。農業に頼る代わりに、雑草は2〜3cm伸びたところで土をかぶせて抑え、新芽に幼虫を見つけたら手で捕ってしごみます。それでも虫に食べられてしまったら「採れただけありがたい」と受け止める。そ

こには「農業は天候に左右されるものだから」と自然にならう、謙虚でおおらかな姿がありました。

「畑に種落つことすのと、魂込めて播くのじゃ違うよ」と、丹精込めて土から作った野菜を、私たちは感謝の気持ちでいただきたいと思えます。

甘みが濃いと評判のおいしさ
人参

1049 500g
398円(税込430円)

1050 1kg
738円(税込797円)

※小さいもの、一部傷のあるものをお届けする場合があります。また、洗い人参でお届けする場合があります。




土が育んだほくほくのうまみ
里芋

1068 400g 
368円(税込397円)



肉厚で茎まで甘みしっかり
ほうれんそう

1074 200g 
338円(税込365円)



※異なる産地のものが届く場合があります。
※同時配布の『カタログ大地を守る』とお買い物サイト152号を合わせてご覧ください。

ソーシャルレポート

今号は、フェアトレード商品の産地を支援する「互恵のためのアジア民衆基金」の総会についてレポートします。

「互恵のためのアジア民衆基金」の総会が東京で開催されました

互恵のためのアジア民衆基金とは？

「互恵のためのアジア民衆基金」(以下、APF)とは、主にアジア各地のフェアトレード商品の産地を支援するための融資基金で、2009年12月に大地を守る会をはじめ18団体によって設立されました。バングラディッシュのグラミン銀行が始めた農村振興のための少額融資(マイクロクレジット)の考え方を基礎に、それぞれの産地が抱える問題

を解決すべく、各産地が提案してきたプロジェクトに融資を行うというものです。毎年開催されている総会は、昨年のエコシュリンプの産地であるインドネシアに続き、今年も10月7・8日に日本の東京で行われ、各融資先からの報告を受けました。現在、融資は4か国において8つのプロジェクトに行われています。

パレスチナからの参加者は急ぎょ帰国

総会にはアジア各地の生産者、日本で商品を販売してAPFに参加している関係者の約150名が集まりました。1日目は、干ばつの被害を受けた生産者に株や肥料を配布するバラゴンバナナの生産復興や、微生物資材を投入して養殖池を自然な状態で安定させるエコシュリンプの生産向上など、各プロジェクトの進捗を確認。融資は農

業支援などに役立っています。2日目は各産地のより詳しい話や交流を行いました。パレスチナからの参加者2名は、情勢の悪化により検問所が閉鎖されてしまうため、家族がいるパレスチナに急ぎょ帰国することが決まるなど、緊迫した空気も感じられました。APFをはじめさまざまな形で、海外の生産者ともつながり続けます。



1 パレスチナのオリーブオイルの生産者、ファッドさん。総会の1日目に始まったハマスとイスラエルの武力衝突や現地の厳しい情勢について、ほぼリアルタイムで共有する状況となりました。
2 フィリピン、インドネシア、パレスチナ、ネパール、パキスタン、韓国、日本から、約150名の生産者・関係者が集合。
3 インドネシアのエコシュリンプの生産者、ハリーさん。
4 フィリピンのバラゴンバナナの生産者、ノルマさん。



バラゴンバナナ
1044 蔵
500g 526円 (税込568円)
原産国/フィリピン



エコシュリンプむきみ (ブラックタイガー)
1213 凍 93
200g 1,730円 (税込1,868円)
⑦えび 原産国/インドネシア

④オルター・トレード・ジャパン (東京都新宿区)
※売り上げ金のうち10円は、「互恵のためのアジア民衆基金」として積み立てます。
※同時配布の『カタログ大地を守る』とお買い物サイト152号を合わせてご覧ください。

電気を消して、さまざまなことに思いを馳せる時間を 100万人のキャンドルナイト2023冬至



夏至と冬至の夜8時から10時の2時間、電気を消してゆっくり過ごすというムーブメント「100万人のキャンドルナイト」。今年の冬至も12月18日(月)～24日(日)の1週間、大地を守る会はアクションを呼びかけます。いつもとは違う暗闇の中では、普段なかなか感じたり考えたりできなかったことが少しずつ見えてきます。より良い暮らし、社会、地球への一歩になるよう願いを込めて。



◀アクションへの参加方法や100万人のキャンドルナイトの詳細はこちら

『NEWS大地を守る』は WEBでもご覧いただけます。
イベントの詳細・お申込みもWEBからどうぞ。
<https://www.daichi-m.co.jp/>

お問合せ

大地を守る会サポートセンター TEL 0120-158-183
受付時間 ●月～金・午前9:00～午後5:00 / 土・午前9:00～午後1:00
お問い合わせフォーム ●<https://takuhei.daichi-m.co.jp/support>
E-mail ●support@takuhei.daichi-m.co.jp

●『NEWS大地を守る』に掲載している取り組みは、主に大地を守る会の宅配サービスの年会費・利用料で運営されています。



イベントは左記 WEBサイト内の「イベント情報」へ。

注意事項

当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報を、お申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行業者に業務委託する場合があります。この場合、個人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuhei.daichi-m.co.jp/Information/8>

パレスチナへの緊急支援を開始

2023年10月7日に始まったハマスとイスラエル軍の武力衝突により、パレスチナとイスラエル双方の市民に多数の犠牲者が出ています。「オリーブオイル(パレスチナ自治区産)」の生産団体・UAWCは、ガザ地区の人びとに対する物資の緊急支援、中期的には爆撃によって破壊された農地や農業施設の復興支援、また、ヨルダン川西岸地区で増加している強制立ち退きなどにより、避難生活を送る市民へのテントや住宅資材の提供を行う準備などを進めています。大地を守る会ではその活動へ寄付を行うため、DAFDFAF基金とスマイルオリーブ基金付きの「オリーブオイル(パレスチナ自治区産)」で、募金を開始します。ご協力よろしく願いいたします。



ガザ地区は爆撃で町が破壊され、UAWCのあるヨルダン川西岸地区も情勢が悪化。



DAFDFAF基金
4801 1口 500円
※「DAFDFAF基金」への募金です。



オリーブオイル (パレスチナ自治区産)
1642 450g 2,527円 (税込2,729円)
原産国/パレスチナ自治区
④オルター・トレード・ジャパン (東京都新宿区)
※1本につき24円を「スマイルオリーブ基金」として積み立て、パレスチナにオリーブの苗を送ります。